

第111回 別れ歌でもないのに ホステスたちを泣かせた1曲

ヒットチャートを提供するオリコンが正式にスタートしたのが昭和43年の1月からで、最初に第1位を獲得した曲が『ラブユー東京』でした。ちょうどGSのザ・タイガースが『君だけに愛を』を発売した時期と重なります。

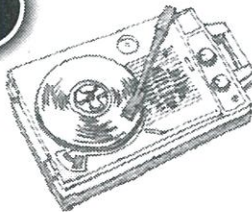
タイガース人氣が絶頂期だった頃にもかかわらず、『君だけに』がオリコン2位止まりだったのには、ロス・プリモスという大人のコーラスグループの存在があったからでした。GSが隆盛を極めた昭和43年当時、ジャズ喫茶で10代の少女たちがGSに熱狂していた裏側で、夜の職場で働く20代以上の女性のハートを掴んだのは、同じバンド形式であってもGSとは対照的な「大人の社交場」にふさわしいムードコーラスでした。私が自分の給料でマンモスキャバレーやグランドキャバレーといった「明朗会計 大人の社交場」の楽しみを知ったのは、こうした大型キャバレーがピークを迎える昭和50年代に入ってからですが、20代半ばだった

私に対し、ホステスさんは皆、年上の女性。戦前・戦中生まれのお姉さんたちが多く、私と同年代だと思

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

堀井六郎
絵 松本浦



ったホステスさんが小学生の男の子の子持ちだった、ということもありました。

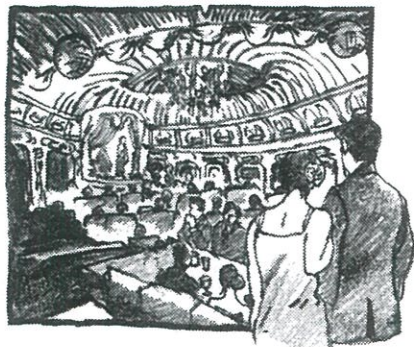
大型キャバレーに欠かせなかったのが、広いダンスフロアとミラーボール、豪華なソファアールときらびやかな衣装をまとった大勢のホステスさん、そしてゲスト歌手とそれを支えるビッグバンドでした。

これらは、ホステスさんとひとときの擬似恋愛・擬似デートを楽しむための演出装置で、ゴージャスな雰囲気の中、大人の会話やチークダンスに興じ、ゲストの歌手やコーラスグループの歌を堪能し、今でいう「デイナーショー」の気分にも浸ることができました。

そこで歌われる曲のキーワードとなるのが「雨、夜、別れ、女、盛り場の名称」などで、これを女性言葉

で歌うことでホステスさんの心に届きやすくになります。さらに歌詞の内容にご当地が絡んでくると、有線へのリクエストにもいっそう力が入ったことでしょう。

昭和43年を境にGSブームは凋落、有



線放送を味方につけた「女心を歌う盛り場ソング」が静かに、そして深く浸透していきます。この年、森進一の『盛り場ブルース』『花と蝶』『年上の女』、美川憲一『釧路の夜』、青江三奈『伊勢佐木町ブルース』『長崎ブルース』、高橋勝とコロラティノ『思案橋ブルース』、ロス・インディオス『知りすぎたのね』などがヒットし、夜の巷にふさわしい大人の歌が量産されました。

ホステスさんたちの応援と有線放送の影響が増していく中、昭和46年8月、白川奈美の『遠くはなれて子守唄』が発売されます。当時、さかんにPRされていた「ディスクバー・ジャパン」を意識してふるさと回帰の路線を狙った歌詞でしたが、子どもを実家などに預けて夜の勤めに出なくてはいけない子持ちの

ホステスさんは、白川の歌う姿に自らを重ねました。わが子のために頑張る戦前・戦中生まれの女性たちから圧倒的に支持されたヒット曲の背景には、「幼子を抱いて寝かせる夢」に共感して涙するホステスさんの母親としての情愛があったのです。

ホステスさんは、白川の歌う姿に自らを重ねました。わが子のために頑張る戦前・戦中生まれの女性たちから圧倒的に支持されたヒット曲の背景には、「幼子を抱いて寝かせる夢」に共感して涙するホステスさんの母親としての情愛があったのです。